

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/08

米経済に対するコンセンサスを探る

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	材料を個別に確かめ、方向感を模索 予想レンジ: 76.80 ~ 81.50 円	2 - 3
カナダ/円	↘	リスク回避ムード払拭なるか？ 予想レンジ: 77.80 ~ 82.00 円	4 - 5
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 8/1~5の主な推移

※4時間足



8/1 Monday	9時40分にオバマ米大統領が「民主・共和両党指導部と債務上限や赤字削減で合意に達した」と述べるとドル/円は78.05円までドル高が進んだが、78円台での売り意欲は強く、すぐに反落。さらに夕方にイタリアとスペインの国債利回りが大幅に上昇し、ユーロ/円が下落すると、ドル/円も連れ安。また、23時に発表された米7月ISM製造業景況指数が50.9と市場予想(54.5)を大幅に下回ると、ドル/円は76.29円まで急落した(①)。ただ、日本時間2日に入り、日経新聞電子版が「政府が介入準備」「米国も事実上介入を容認する姿勢」「日銀は追加金融緩和に向けて準備」など報じると、ドル/円は77円台前半まで値を戻した。
8/2 Tuesday	朝から政府・日銀の円売り介入への警戒感から広がる中、まとまった規模の円売り・ドル買いが入ると介入観測を絡めながら77.81円まで上昇したが、すぐに上げ幅を縮小した(②)。米国市場では、21時30分発表の米6月個人消費が前月比-0.2%と予想(+0.1%)に反して減少していたことを受け米国経済の減速懸念が強まると、ドル/スイスフランでスイスフラン高・ドル安が進行。ドル/円でもドル売り優勢となり、76.96円まで値を下げた。なお、日本時間3日に入ると米上院で債務上限引き上げ法案が可決されたが、相場の反応は限定的だった。
8/3 Wednesday	21時15分に発表された米7月ADP全国雇用者数が11.4万人増と予想(10.0万人増)を上回ったものの、反応は限定的だった。しかしその後、米国株が寄り付きから下落しクロス円が全般的に値を下げると、ドル/円も連れて下落。この流れは23時発表の米7月ISM非製造業景況指数が52.7と予想(53.5)を下回ったことを受けて加速し、ドル/円は76.78円の安値をつけた(③)。ただ、NYダウ平均が引けにかけてプラスサイドに切り返すと、ドル/円も77円台を回復した。
8/4 Thursday	10時過ぎ、本邦当局が「無秩序・投機的な動きをけん制するため」に円売り・ドル買い介入を行うと77.10円台からドル/円は急騰。日銀が5日まで開催予定だった金融政策決定会合を早めに切り上げて資産買い入れ基金の約10兆円増額を発表したことも円売り材料となり、19時過ぎには80.24円の高値をつけた(④)。ただ、その後は欧州中銀(ECB)の6カ月物資金供給オペ導入を受けたユーロ/円の下落などを背景に、78.60円台まで上げ幅を縮小した。
8/5 Friday	朝に野田財務相が「(介入について)しばらくしてから効果を判断」と発言したことを受けて目先の介入警戒感が後退する中、アジア株安を受けてクロス円が下げると、ドル/円も下げた。13時過ぎにまとまったドル買い・円売りが入ると、介入観測を絡めつつ79.42円まで急騰する場面もあったが、反応は一時的。また、21時30分に発表された米7月雇用統計は失業率は9.1%(予想:9.2%)、非農業部門雇用者数が11.7万人増(同:8.5万人増)と予想よりも強い結果となり、一時79.05円まで反発したが、格付け会社S&Pによる米国格下げ不安などを背景にNYダウ平均が一時大幅安となりクロス円が下げると、ドル/円は再び78円台半ばまで押し戻された。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

先週のドル/円相場は76.29円～80.24円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約2.0%の上昇(ドル高・円安)となった。週中盤までは77.00円を挟んで方向感のない展開だったが、4日の本邦政府・日銀による円売り・ドル買い介入によって一時急騰。しかし、全般的にドル売りが強まる中でその後は上げ幅を縮小し、週を通してみると小幅に反発、という流れとなった。

週末に格付け会社S&Pが米国を「AAA」から「AA+」へ格下げし、8日早朝にはドル売り圧力が一時強まったが、G7(7カ国)緊急電話会合が開催されたことで、週明けの東京市場のドル/円相場は比較的落ち着いた取引になっている。目先の市場は、米国経済の先行きについて、各種手掛かり材料を確認しながら市場はコンセンサスを形成する流れになると予想され、ドル/円はその中で米国経済の先行き不安、追加緩和観測が強まればドル売り・円買い、格下げによる不安が一旦収束に向かえばドル買い・円売りで反応しつつ、方向感を探る展開になるだろう。

今週は9日に米連邦公開市場委員会(FOMC)による声明発表が予定されている。今回、金融政策に変更があるとみる向きは少なく、FOMC後のバーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の記者会見は予定されていない。しかし、米経済の先行き不安が強い中、FOMCがどのような景気判断を行うかがポイントとなってこよう。また、今週の米国では10日に7月月次財政収支、11日に6月貿易収支と新規失業保険申請件数、12日に7月小売売上高および8月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値などの主要経済指標の発表が予定されている他、米国債入札(9日:3年債、10日:10年債、11日:30年債)もあり、これらも手掛かり材料になってくるとみる。

ただし、引き続きドル安・円高が進む局面では本邦政府・日銀による為替介入や介入観測が下支え要因になってくる点は常に意識しておくべきだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ:76.80～81.50円)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 8/1~5の主な推移



8/1 Monday	米オバマ大統領が、民主・共和両党の指導部が債務上限引き上げと歳出削減策について合意したとの声明を発表した事を受けて、日経平均株価や時間外のNYダウ先物が堅調に推移するとカナダ/円は81.95円まで上昇した。しかしその後、7月米ISM製造業景況指数が予想を下回った事を受けて、米国景気の減速懸念が強まると、債務上限引き上げ問題の合意を好感して上昇していたNYダウ平均株価が急落。カナダ/円は79.59円の安値を付けた。(①)ただ、NY時間終盤に、日本経済新聞電子版が「日本政府が円高是正へ介入準備」などと報じると、ドル/円の反発とともにカナダ/円も80円台後半まで値を戻した。
8/3 Wednesday	米国景気の減速懸念を背景に寄り付きから下落していたNYダウ平均株価が、米7月ISM非製造業景況指数の悪化を受けて下げ幅を拡大、一時前日比160ドル超の下落となると、カナダ/円は79.66円まで下落した。(②)しかし、その後、量的緩和第3弾(QE3)導入観測が台頭した事で米国株が持ち直すとカナダ/円は80円台を回復した。
8/4 Thursday	本邦当局が「無秩序・投機的な動きをけん制するため」として円売り・ドル買い介入を実施。日銀は5日にかけて行われる予定だった金融政策決定会合を短縮して、10兆円規模の追加緩和を前倒して発表した。欧州時間まで断続的に行われた本邦当局による円売り介入でドル/円が一時80円台まで上昇すると、カナダ/円も82.65円の高値を付けた。(③)しかしその後、欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁がユーロ圏の景気減速に言及したことなどを背景に欧米株価が大幅に下落。原油価格も大幅下落となると、リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は80.41円まで下落した。
8/5 Friday	加7月雇用統計は、雇用者ネット変化は0.71万人増と予想(1.50万人増)を下回ったものの、失業率が7.2%と、前月や予想(いずれも7.4%)よりも良好な結果となると、カナダドル買いが優勢となった。さらにその後発表された米7月雇用統計が予想よりも良好な結果となった事を受けて、米国景気の減速懸念が和らぐと、時間外のNYダウ先物が急上昇。カナダ/円も80.90円まで上昇した。(④)しかし、その後大幅高で寄り付いたNYダウ平均株価が、米国価格下げの噂が広がった事を受けて急落すると、カナダ/円は79.59円まで急速に値を下げた。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は79.59円～82.65円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.4%の下落(カナダドル安・円高)となった。この間、NYダウ平均株価は約5.8%の下落、原油価格(WTI期近物)も約9.0%の大幅下落となった割には、カナダ/円の下落は小幅にとどまっている。4日に発動された本邦当局による円売り介入の効果と言えそうだ。しかし、5日のNY市場終了後に格付け会社S&Pが史上初となる米国債の格下げを発表した事を受けて、週明け8日早朝の取引では、時間外のNYダウ先物や原油価格は大幅に下落。カナダ/円も79.13円まで下落している。米国の格下げはある程度織り込み済みとは言え、今後、市場にどの程度の動揺を与えるかについては未知数だ。市場の動揺を抑えるために、7カ国財務相・中銀総裁(G7)は8日朝、緊急声明を発表して国際協調姿勢を打ち出したが、ドル買い介入などへの具体策への言及は見られなかった。欧州でも、債務問題がイタリアやスペインに波及しつつある中、リスク回避による円高圧力がかかりやすい地合いが続きそうだ。今週は、9日に米国で連邦公開市場委員会(FOMC)が行われる。バーナンキ連邦準備制度理事会(FRB)議長をはじめとする主要メンバーは量的緩和第3弾(QE3)の導入には消極的な姿勢とされているが、今回のFOMCで追加緩和への言及がなければ、米国株が一段安となる可能性も否定できず、カナダ/円にも下落圧力がかかる事になるだろう。(神田)

(予想レンジ: 77.80～82.00円)

経済指標カレンダー (8/8~10)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/8	08:50		(日) 6月貿易収支	-7727億円	+1131億円
(月)	14:00		(日) 7月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]	49.6	50.0
	14:00		(日) 7月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI]	49.0	—
	14:00		(日) 8月金融経済月報・基本的見解	—	—
8/9			南ア休場(ウーマンズ・デー)		
(火)	08:50		(日) 7月マネースtockM2+CD [前年比]	+2.9%	+2.9%
	10:30	◎	(中) 7月消費者物価指数[前年比]	+6.4%	+6.4%
	10:30	○	(中) 7月生産者物価指数[前年比]	+7.1%	+7.5%
	11:00	○	(中) 7月鉱工業生産[前年比]	+15.1%	+14.7%
	11:00	○	(中) 7月小売売上高[前年比]	+17.7%	+17.7%
	15:00		(独) 6月経常収支	+69億EUR	—
	15:00		(独) 6月貿易収支	+148億EUR	+140億EUR
	17:30	○	(英) 6月鉱工業生産 [前月比]	+0.9%	+0.4%
	17:30		(英) 6月製造業生産高 [前月比]	+1.8%	+0.2%
	17:30		(英) 6月商品貿易収支	-84.78億GBP	-8100億GBP
	21:15		(加) 7月住宅着工件数	20.08万件	19.32万件
	21:30		(米) 第2四半期単位労働費用 [前期比]	+0.7%	+2.3%
	21:30		(米) 第2四半期非農業部門労働生産性 [前期比]	+1.8%	-0.8%
	26:00	○	(米) 3年債入札 (320億ドル)	—	—
	27:15	◎	(米) FOMC政策金利発表	0.00-0.25%	—
8/10	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (7月11・12日分)	—	—
(水)	11:00	○	(中) 7月貿易収支	+222.7億USD	+270億USD
	15:00		(独) 7月消費者物価指数・確報 [前月比]	+0.4%	+0.4%
			(独) 7月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.4%	+2.4%
	18:30	◎	(英) BOE四半期インフレレポート	—	—
	23:00		(米) 6月卸売在庫 [前月比]	+1.8%	+1.0%
	26:00	○	(米) 10年債入札 (240億ドル)	—	—
	27:00	○	(米) 7月月次財政収支	-431億USD	-1400億USD

経済指標カレンダー (8/11~12)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/11 (木)	08:50		(日) 6月機械受注 [前月比]	+3.0%	+1.8%
			(日) 6月機械受注 [前年比]	+10.5%	+11.3%
	10:30	◎	(豪) 7月新規雇用者数	+2.34万人	—
	10:30	◎	(豪) 7月失業率	4.9%	—
	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	21:30	○	(米) 6月貿易収支	-502億USD	-475億USD
	21:30	◎	(米) 8/5までの週の新規失業保険申請件数	40.0万件	—
	21:30		(加) 6月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.4%	—
	21:30		(加) 6月国際商品貿易	-8億CAD	-10億CAD
	26:00		(米) 30年債入札(160億ドル)	—	—
8/12 (金)	13:30		(日) 6月鉱工業生産・確報 [前月比]	+3.9%	—
			(日) 6月鉱工業生産・確報 [前年比]	-1.6%	—
	18:00	○	(ユーロ圏) 6月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.3%	—
	21:30	○	(米) 7月小売売上高 [前月比]	+0.1%	+0.4%
	21:30	○	(米) 7月小売売上高 [前月比: 除自動車]	±0.0%	+0.2%
	22:55	◎	(米) 8月ミシガン大消費者信頼感指数 ・速報値	63.7	63.7
	23:00		(米) 6月企業在庫 [前月比]	+1.0%	+0.6%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com